

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

日中間のトラブルが輸出を押し下げ（10月貿易統計）

10月輸出は、中国向けを中心に大幅な減少。中国向けでは自動車や自動車関連セクターの減少が顕著。世界経済回復の恩恵を日中問題が遮断し、10～12月期も日本の輸出は低迷の見込み。

10月輸出は大幅減少

財務省が公表した10月の貿易統計によると、**輸出額（名目輸出）は前年比▲6.5%（9月▲10.3%）と5ヶ月連続で減少**した。前年比のマイナス幅は縮小したが、昨年の裏に過ぎず（2011年は9月2.3%、10月▲3.8%）、**実際、財務省試算の季節調整値では10月に前月比▲2.8%（9月0.4%）、価格変動の影響を除いた当社試算の実質ベース・季節調整値では▲3.6%（9月▲2.3%）と共に大幅な減少**である。①7～9月期までの世界経済減速や先行き不透明感を受けた需要減少と②日中間の深刻なトラブルが、日本の輸出を大きく下押ししていると判断される。

世界経済回復の恩恵を日中問題が遮断

米中や一部の新興国に持ち直しの動きが見られるなど、**10～12月期に入り世界経済には回復の動き**が生じ始めている。しかし、そうした**世界経済回復の恩恵は日中間の深刻なトラブルにより遮断され、日本の輸出は10～12月期も低迷**が続くと見込まれる。実際、当社の試算では10月の実質輸出は7～9月期を5.7%も下回る水準にある（7～9月期は前期比▲5.0%）。

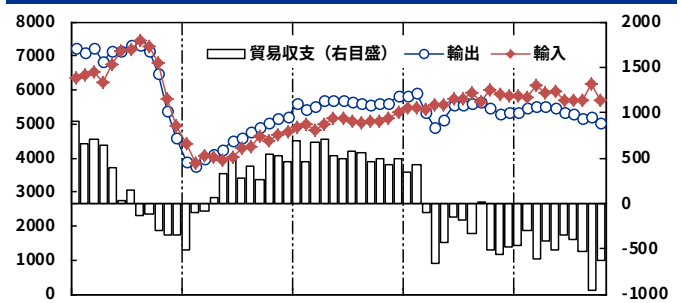
中国向け輸送用機器輸出が急減

輸出を仕向け地別に見ると、**日中間のトラブルを受けた中国向けの落ち込みが大きい**。中国向け輸出の前年比は、9月▲14.1%が10月は▲11.6%へ縮小したが、これは上述の輸出全体と同様に昨年の裏に過ぎない（2011年は9月2.7%、10月▲8.2%）。当社の試算では、**中国向け輸出額は名目ベースで10月に前月比▲4.1%（9月▲1.6%）、実質ベースでは▲6.0%（▲5.3%）と大きく落ち込んだ**。実質ベースの季節調整値で、品目別の動きを見ると、**自動車が主力の輸送用機器が前月比▲41.2%、自動車向けが多い金属及び同製品は▲20.2%と大幅な減少**である。また電気機器（▲4.3%）や化学製品（▲5.5%）の落ち込みも目立つ。

中国向け以外も低調

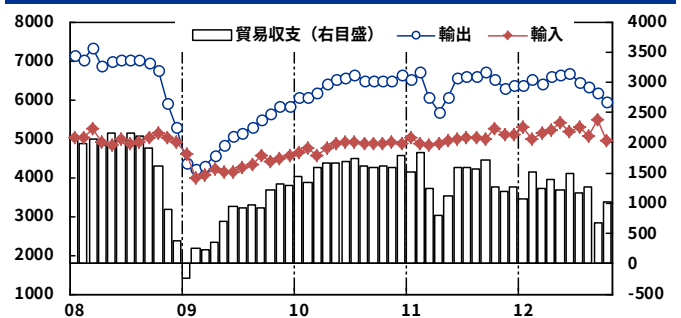
10月は中国向け以外も総じて低調だった。実質ベー

名目輸出入の推移（10億円、季調値）



(出所) 財務省

実質輸出入の推移（10億円、季調値、2005年基準）



(出所) 財務省、日本銀行

中国向け実質輸出（2005年=100）



(出所) 財務省、日本銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

スの季節調整値で、米国向けが前月比▲3.0%（9月▲7.4%）、EU向けは▲8.2%（9月6.3%）と共に大幅な減少である。また、中国向け以外のアジア向け輸出もNIEs向けが▲2.7%（9月3.4%）、ASEAN向け▲2.6%（9月2.6%）と総崩れだった。なお、中国を含めたアジア向け全体は▲4.5%（9月0.3%）の減少である。

なお、中国向けが大きく落ち込んだ輸送用機器ではあるが、10月に中国向け以外は持ち直し、合計では前月比2.6%（9月▲9.7%、実質ベースの季節調整値）と増加に転じた。米国向けが9.3%、NIEsは36.6%、ASEANも21.6%と軒並み増加している。寒風が吹きすさぶ自動車業界にとっては、数少ない明るい動きの一つである。

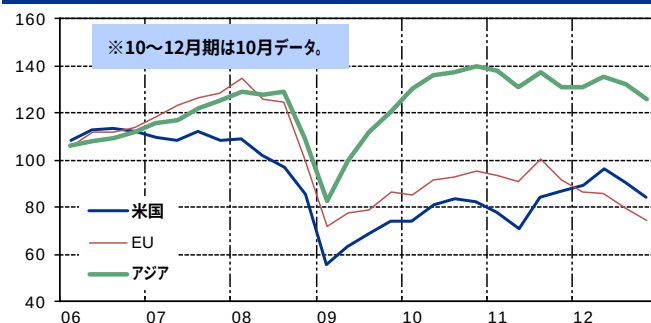
輸入は一時的要因の剥落で減少

10月の輸入額（名目輸入）は前年比▲1.6%（9月4.1%）と減少に転じた。財務省試算の季節調整値では前月比▲7.8%（9月8.0%）、実質ベースの季節調整値でも▲10.3%（9月8.6%）と大きく落ち込んでいる。10月から化石燃料の輸入業者に対し新たに環境税が課税されたため、9月に駆け込み輸入が、10月はその反動が生じたと判断される。実際、鉱物性燃料輸入は9月に前月比22.7%と急増した後、10月に▲32.0%と急減している（実質ベースの季節調整値）。

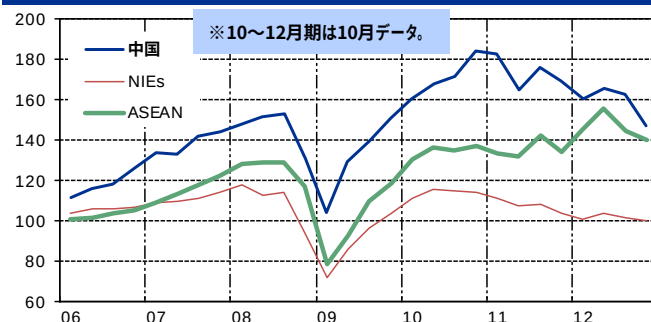
高水準の貿易赤字が継続

9月は輸入の急増により、季節調整値ベースの貿易赤字が9,591億円と連続性のあるデータに基づく限り、統計開始以来の最大に膨らんだ。しかし、9月の赤字急増は税制変更に依存した一時的な動きであり、10月の貿易赤字は6,243億円まで縮小している。とは言え、既に述べたように輸出の回復は遅れる可能性が高い一方、発電用燃料の輸入は高水準の推移が避けられないため、今後も高水準の貿易赤字が継続すると見込まれる。

地域別実質輸出の推移（2005年=100）



対アジア実質輸出の推移（2005年=100）



実質輸入の推移（実質、2005年基準、10億円）

